

宮城県の2月14日からのコロナ対策

「みやぎ医療ひっ迫危機宣言」が終わります。

▽ 新型コロナウイルスに感染する人の数と、病院のベッドを使っている割合が減っています。医療の厳しさも良くなっています。だから、2月13日で「みやぎ医療ひっ迫危機宣言」は終わります。

→①医療が厳しくならないように②感染を少なくするために「宮城県に住んでいる人へのお願い」は、緩くして続けます。

今やっているオミクロン株対策



① ワクチン接種を早く受けます



② 学校や保育所で感染を防ぐ対策をしっかりとします



③ 高齢者・障害者が施設を使えるように感染を防ぎます



④ テレワークや時差出勤などができる人をもっと増やします



医療の大変さは、これからも注意が必要です

- ・【医療が続けられるようにすること】は、続けます
- ・【感染が広がらないようにすること】は、続けます

社会や経済への影響は一部だけです

- ・業務ができなくても大丈夫な準備や、テレワークのお願いは緩めます

宮城県に住んでいる人へのお願い (2023年2月14日～)

医療が続けられるようにすること

- ✓ 検査キットを使って自分で検査をします
(発生届の対象ではない人)
- ✓ 救急外来に行く、救急車を呼ぶのは、症状がとても悪い時だけにします

続けます

感染が広がらないようにすること

- ✓ 基本的な感染を防ぐ対策をまたしっかりとします
(特に旅行、季節の行事の時はしっかりとします)
- ✓ ワクチン接種を早く受けます
- ✓ 旅行に行く時などはいつも検査を受けます
- ✓ 具合が悪いときは家にいます
- ✓ 感染が広がる行動はできるだけしません
- ✓ テレワークをして人と会わないようにします

続けます

緩めます

業務が続くようにすること

- ✓ 業務を続けるための計画を確かめます
(県民が生活するために必要な仕事をする事業者)

緩めます

みやぎけん す ひと ねが みやぎけん ぜんぶ 宮城県に住んでいる人へのお願い【宮城県全部】

ねん がつ にち
2023年2月14日～

【医療が続けられるようにすること】

- 発生届の対象でない人は、検査キットを使って自分で検査をしたり、陽性者サポートセンターを使います。
- 病院が大変にならないように、救急外来に行く、救急車を呼ぶのは、症状がとても悪い時だけにします。

【感染が広がらないようにすること】

- 部屋の空気を入れ替えたり、不織布のマスクをしたり、手をしっかり洗います。みんなが感染を防ぐ対策をしっかりとします。
- 他の人と近くで話すときなどは、マスクをしっかりとつけます。
- 感染したときのために、薬や検査キット、食べ物や、生活に必要なものを準備します。
- いつも健康に注意して、発熱・せき・のどの痛みなど、少しでも体調が悪いときは家にいます。
- 自分や家族が感染しないように、感染リスクの高いことはできるだけしません。
- できるだけ早くオミクロン株に対応したワクチン接種を受けます。
- 生まれてから6か月から11歳の子どもの保護者＜＝親など＞は、子どもがワクチン接種を受けるかどうか考えます。
- 飲食店を選ぶときは、認証店などの感染対策をしっかりとっている店にします。店の感染対策ルールを守ります。
- 他の人と食事をするときは、短い時間にします。大きな声で話しません。話すときはマスクをしっかりとつけます。「うつさない」「うつらない」行動をします。
- 旅行するとき、宮城県の外に行くとき、大きなイベントに参加するときは、感染対策をしっかりとします。行った場所の感染対策ルールをしっかりと守ります。
- 感染者と接触した時は早く検査を受けます。ふるさとに帰る時などで、高齢者や病気がある人などコロナウイルスに感染すると症状がとても悪くなる人に会う前には、検査をします。高齢者施設などを使う人は、一時的に家に帰るときに、いつも検査をします。

※「選ぶ！選ばれる!!みやぎ飲食店コロナ対策認証制度」の認証店